

学習指導要領

B-10 友情・信頼

友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにする。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育んでいく必要がある。

教師の願い

友達と協力することの大切さや、一緒に活動することの楽しさについて考えさせたい。

また、児童一人ひとりが、自分なりの方法で思いや考えを伝えられるようにしたい。

児童の実態

少しずつ友達のことを意識できるようになっている。しかし、まだ意識が相手のことまで及ばないことがある。質問された内容を正しく理解し、適切に答えることが難しい傾向がある。

校内研究主題

主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成

<主体的・協働的>

- ・教材や課題に対して、興味をもって見たり聞いたり、進んで取り組んだりすることができる。
- ・友達の考えに興味をもって聞くことができる。

<思いや考えを深める>

- ・自分の考えをもち、それを周りの人にさまざまな手段で伝えることができる。
- ・自分の考えと友達の考えを比べることができる。

目指す児童像(久我山学級)

「わかる！できる！活動」を通して、思いを伝え合う児童

仮説

児童の実態に合った教材・学習課題を用意したり、提示の方法を工夫したりすることにより、児童は興味・関心をもって聞いたり考えたりし、理解にもつながるであろう。また「伝え方」に関しても、児童の実態に応じて様々な手段を用意することにより、児童は安心して思いや考えを伝えるようになるであろう。

研究主題に迫る手だて

(1)「わかる」工夫

- ①児童の実態に合った教材(絵本)の選定
児童にとって話の内容が理解しやすい絵本を選定する。
- ②挿絵を大きく映し出す
絵本の挿絵をスクリーンに映し出すことで、児童の集中を促す。
- ③場面の動作化
児童に考えさせたい場面について、実際に動作化をさせることで、登場人物の気持ちを想像しやすくする。
- ④展開の仕方
話を最後まで読んでから発問をするのではなく、場面の途中で止めながら発問する。

(2)「できる」工夫

- ①児童の実態に合った「伝え方」
児童の実態に合わせ、「言葉で伝える」「選択肢(表情絵など)から選ぶ」「動作で伝える」などのさまざまな方法で思いを表現させる。
- ②児童が自分のこととして考えられるような工夫
「みんなも…ということがないかな」と、児童が自分たちの生活を想起できるような声かけをしたり、実際に価値項目につながるような体験をさせたりする。

久我山学級道徳科学習展開案

令和3年9月10日（金）第5校時

杉並区立高井戸第二小学校 久我山学級 1年6名 2年6名

3年1名 合計12名

授業者 教諭 釣真夕美（T1）

教諭 山口廣太（T2）

主任教諭 川野明子（T3）

1 主題名 「なかよくするって いいね」（B－10 友情・信頼）

2 ねらい

友達と一緒に活動することの楽しさを考え、友達と仲良くすることのよさに気付く。

3 教材名 「なかよし」（出典 絵本 さとうわきこ作・絵／PHP研究所）

4 単元について（教材・単元観 児童の実態）

（1）学習指導要領との関連

B 主として人のかかわりに関すること

[10 友情，信頼]

[第1学年及び第2学年]

友達と仲よくし，助け合うこと。

（2）学習材観

「なかよし」（出典 絵本 さとうわきこ作・絵／PHP研究所）

この物語は、お風呂に入ってシャボン玉で遊ぶことが大好きな犬と猫の話である。狭い浴室でシャボン玉をしていると、互いのシャボン玉がくっついて割れてしまう。それを相手のせいにし、けんかが始まる。二人は、けんかの後も納得がいかに、もう一度それぞれでシャボン玉をするが、いつしか二人のシャボン玉がくっつき大きくなっていく。そっと壊れないように膨らませていくうちに、けんかをしていることを忘れ、協力して取り組む。その後、「ごめんね。」「ぼくこそ、ごめんね。」と互いに謝り、二人とも悪かったことを認める。

些細なことでけんかが始まることは、本学級の児童も自分のことと照らし合わせて考えやすい。さらに、自分が一生懸命作ったものを壊されたとき、どう感じるかを考えることに繋がる。また、自然に仲直りをしているにもかかわらず、最後には言葉で「ごめんなさい」と言えたり、自分にも非があると認め「僕こそ、ごめんね。」と言えたりする態度を育てたいと考える。さらに、互いの気持ちを思いやりながら生活することの良さに気付いてほしいという願いから、本教材を選んだ。

（3）学習者について

本学級の低学年児童は、少しずつ友達のことを意識することができるようになってきている。しかし、まだ自己中心的なものの考え方をすることもあり、些細なことでけんかになってしまう。けんかの後は、形式的に「ごめんね」「いいよ」で済ませてしまうことがほとんどである。そこで、本教材を通して、心から「ごめんね」と言えた時の気持ちに気付かせたい。さらに、友達と一緒に活動することで、一人ではできな

かったことができるということを感じられる機会も与えたい。

「話すこと」に関しては、質問された内容に沿った発言をすることが難しい児童が多い。簡単な言葉に置き換えて話したり、ゆっくりと考える時間を与えたりすることで、自分の思いをまとめたり話したりしようとすることができる児童もいる。どのような答えも教師が丁寧に受け止めることで、児童が安心して自分の思いを話すことができる。

(4) 久我山学級(知的固定学級)の道徳について

本学級では、「特別の教科 道徳」を「なかよしタイム」という呼び方で、週に1回行っている。

内容は、低学年の内容を主に行っている。また、日常生活に関わる項目を中心とし、例えば、「A 主として自分自身に関すること」や「B 主として人との関わりに関すること」は、道徳の授業以外でも話をする機会が多い。

教材は、低学年の教科書を使うこともあるが、絵本や動画教材を使用することが多い。動画の場合はNHK for Schoolの道徳や特別活動、特別支援のコンテンツを活用している。また、学校生活に必要な「並ぶこと」や「畳むこと」「給食を食べること」などを取り上げた場合は、並び方や畳み方を練習したり、箸を持ってつまむ体験をしたりすることもある。

学習形態は、1～6年生全員で行ったり、低学年・高学年の二つのグループに分かれて行ったりしている。全員で行う場合の利点は、低学年が高学年の様子を見て学ぶことができる点である。多様な考えに触れることができ、毎年繰り返すうちに、低学年の児童も徐々に自分の考えを話せるようになる。低学年と高学年で分けて授業を行うと、高学年と低学年それぞれの実態に合わせた教材を使って授業をすることが可能になる。

今年度は、国語の研究で取り組んだ「話す・聞く」ことを、道徳の学習の中でも生かすことができるであろうということを考え、授業づくりに取り組んでいる。全学年で行う学習の中では、自分の考えを表現することが少ない低学年の児童が、内容や質問されていることが「分かる」・自分の考えをもったり発表したりすることが「できる」ようになるために、どのような手だてが有効であるか、試行錯誤し実践している。

【今年度の道徳（1学期）】

月	価値項目	内容	学習形態
4	礼儀(B-9) 礼儀(B-9) 節度・節制(A-3)	あいさつをしよう あいさつをしないと困ること ならぶ(NHK for Schoolで~きた) 早寝早起き朝ごはん 整理整頓	全学年 全学年 全学年 1年生 1年生
5	節度・節制(A-3) 節度・節制(A-3) 努力と強い意志(A-5)	たいちょうかんり(NHK for Schoolで~きた) きがえ(NHK for Schoolで~きた) がんこちゃんアイドル(NHK for School 新ざわざわ森のがんこちゃん)	全学年 全学年 全学年
6	思いやり親切(B-6) 善悪の判断(A-1) 公正・公平(C-11) 努力と強い意志(A-5)	くまくんのたからもの(2年教科書) わすれられない えがお(2年教科書) く・う・は・く時間(NHK for Schoolもやモ屋) うかんだうかんだ(1年教科書)	全学年 全学年 高学年 低学年

	親切・思いやり(B-6) } 公平・公正(C-11) }	だれを先に乗せる？(NHK for School ココロ部)	高学年
	善悪の判断(A-1)	ダメ(1年教科書)	低学年
	勇気・希望(A-5)	まほうのスケートぐつ(NHK for School ココロ部)	高学年
	正直・誠実(A-2)	あのね(1年教科書)	低学年
7	個性の伸長(A-4)	面白い子はいいい子？悪い子？ (NHK for School もやも屋)	高学年
	善悪の判断(A-1)	うさこちゃんときやらめる(絵本)	低学年
	親切・思いやり(B-1) } 規則の尊重(C-10) }	おくれたきた客(NHK for School ココロ部)	高学年
	友情・信頼(B-9)	しろちゃんとはりちゃん(絵本)	低学年

5 研究主題に迫る手だて

＜校内研究主題＞ 主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成
＜久我山学級分科会 目指す児童像＞ 「わかる！できる！活動」を通して、思いを伝え合う児童



(1)「わかる」工夫

①児童の実態に合った教材（絵本）の選定

絵の多い絵本を使用することにより、児童は耳だけでなく目からの情報も得ることができ、話の内容の理解にもつながると考えた。

また使用する絵本も、どの児童にとっても理解しやすいよう、「児童に考えさせたいことがはっきりとしている」「児童にとって身近な内容」「話がわかりやすい」「登場人物が少ない」などの観点から選定している。

②挿絵を大きく映し出す

スクリーンいっぱいに大きく挿絵が映し出されることにより、児童は話に集中することができ、話の内容の理解にもつながると考えた。

③場面の動作化

児童に考えさせたい場面・おさえておきたい場面について、実際に児童に動作化をさせたり、教員が動作化して見せたりすることで、場面の様子や登場人物の気持ちが想像しやすくなると考えた。

また、登場人物のお面を付けたり、イラストを首から下げたりすることで、役割をはっきりさせる。

④展開の仕方

「話を最後まで通して聞いた後に、内容を振り返る」という方法だと、どの場面について聞かれているのか分からなかったり、思い出せなかったりする児童がいる。そのため、話の途中で止めながら「このとき、〇〇はどんな気持ちだったのかな」と発問するようにする。

(2)「できる」工夫

①児童の実態に合った「伝え方」

自分の考えを伝える（発表する）力は、個人差が特に大きい。そのため、児童の実態に応じた「伝え方」を教員が提示する必要がある。

- ・選択肢（表情絵など）を提示し、その中から自分の考えに近いものを選ばせる。
- ・言葉で伝えられる児童には、短い言葉でも良いので自分の思いを発言させる。教員が「〇〇ということかな？」と言葉を整理して、復唱させる。
- ・身体の動きで伝えられそうな児童には、登場人物になりきって動作化させる。

②児童が自分のこととして考えられるような工夫

「みんなも…ということがないかな」と、児童が自分たちの生活を想起できるような声かけをしたり、実際に価値項目につながるような体験をさせたりする。

6 本時の学習

(1)ねらい

友達と一緒に活動することの楽しさを考え、友達と仲良くすることのよさに気付く。

(2)展開

学習過程	指導事項・主な学習活動 等	○留意点 ◆評価（評価方法）
1. 友達とけんかをした経験について思い出す。		○児童が自分のこととしてとらえられるよう、T 2も、友達とけんかをしたり、ゆずれなかったり等、児童にとって日常的に起き得る出来事を紹介する。
2. 本時のめあてを知る。	ともだちと なかよく する	
3. 読み聞かせを聞き、登場人物の気持ちを考える。	題名「なかよし」を知る。 登場人物「わんちゃん」「ねこちゃん」を知る。 【発問】 「けんかがどんどんひどくなったとき、わんちゃん・ねこちゃんはどう思っているのかな？」 三つの顔の中から、自分の考えに近い顔を選ばせる。    困り顔 泣き顔 怒り顔 なぜその顔を選んだのか、言葉で言える児童には説明をさせる。 【中心発問】 「しゃぼん玉がこーんなに大きくなったとき、二人はどう思っているのかな？」 場面の動作化をさせ、どんな気持ちになったかを発表させる。	○選択肢から選ばせる。難しい児童には、T 3が中心に声かけなどの支援をする。 ○児童が思うままに呟いたことを落とさずに聞き取り、言葉にできていることを価値づける。 ○パワーポイントを使用し、画面上のシャボン玉が、一人のときには大きくならないが、二人で膨らますと大きくなるようにする。 ○登場人物になりきるために、犬と猫の顔のイラストを首から下げる。 ○児童が思うままに呟いたことを落とさずに聞き取り、言葉にできていることを価値づける。

	(予想される児童の発言) 「いいぞ, もっとおおきくなれ」 「うわぁ, おおきいなぁ」 【発問】 『さっきはごめんね』『ぼくこそごめんね』と言ったとき, 二人はどんな気持ちになったのかな?」 三つの顔の中から, 自分の考えに近い顔を選ばせる。  照れた顔 反省した顔 笑顔 なぜその顔を選んだのか, 言葉で言える児童には説明をさせる。	◆動作化を通して, どんな気持ちになったかを言葉で説明したり, 表情や動きで表現したりしている。(観察) ○選択肢から選ばせる。難しい児童には, T 3 が中心に声かけなどの支援をする。 ○児童が思うままに呟いたことを落とさずに聞き取り, 言葉にできていることを価値付ける。
4. 過去の実体験につなげて友達と一緒に活動して楽しかったことを思い出す。	図工の時間に, それぞれの児童が作った線路を繋ぎ合わせて電車遊びをしたときの気持ちを想起させる。	○線路をつないで遊んでいる写真をスクリーンに投影して思い出しやすくする。

(3) 本時の手だて

○場面の動作化

児童に考えさせたい場面について, 実際に動作化をさせることで, 登場人物の気持ちを想像しやすくする。

○児童の実態に合った「伝え方」

児童の実態に合わせ, 「選択肢(表情絵など)から選ぶ」「言葉で伝える」「動作で伝える」などのさまざまな方法で思いを表現させる。

○児童が自分のこととして考えられるような工夫

児童が自分たちの生活を想起できるような声かけをしたり, 実際に価値項目につながるような体験をさせたりする。

8. 参考資料

「なかよし」 さとうわきこ作・絵 PHP 研究所